

PC 工事発注の現状とそれに対する 思い



西 尾 浩 志*

新年明けましておめでとうございます。

日頃から、プレストレスト・コンクリート建設業協会（PC 建協）の活動に対しご理解とご支援を賜りありがとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

PC 建協は、最重要活動の一つとして、毎年、国土交通省道路局、各地方整備局、各高速道路会社（NEXCO）、鉄道建設・運輸施設整備支援機構などの発注機関と意見交換を実施しています。今年度のテーマは、年度工事量の安定的確保、働き方改革の推進、生産性向上の推進およびインフラ長寿命化への対応でした。

日本における PC 工事の発注量の推移を見てみると、平成 27 年から令和元年、令和 2 年見込みの順で 2 488, 2 562, 2 096, 2 805, 2 706, 3 514 億円となり、増加傾向にあるといえます。内訳を見ると、国、都道府県、市町村、その他官公庁の工事発注合計の全体に対する比率は、49, 52, 57, 44, 46, 22 % と推移し、減少傾向にあります。地域ごとで見ると、さらに大きな減少傾向の地域もいくつか見られます。これに対して、NEXCO の更新・修繕工事発注の全体に対する比率は令和元年まで 8, 8, 19, 28, 42 % と顕著な伸びを示し、令和 2 年の予測ではついに全体の 62 % というようになってきています。全発注量の増加傾向は、NEXCO の更新・修繕に因ることが分かります。べつの切り口で見ると、新設工事の発注は全体の 1/3 程度、更新・修繕工事の発注が 2/3 程度にまでなりそうということです。こうした状況を踏まえ、発注者との意見交換では、各地域の年度工事量の安定的・持続的な確保を最重点テーマとしました。

年度ごとの工事量の安定的・持続的な確保が重要なのは分かり易いと思いますが、各地域ごとにもそれが必要な理由は以下のとおりです。

- ・ 災害発生時の初期対応には PC 工事会社の地域

拠点（支店や営業所）が不可欠です。地域ごとの工事量が安定的・持続的に確保できる見通しが立たないと、地域拠点の維持が難しくなります。

- ・ PC 工事を支え、技術・技能の担い手でもある専門工事業会社は、全国規模ではなく、それぞれある地域を中心に仕事をしています。彼らの存続のためにも地域ごとの安定的な PC 工事量が必要です。
- ・ PC 工事会社の若手技術者も地元志向が高く、会社将来、地元で仕事が確保されるかなど、に不安を抱えている傾向が強くなります。若手技術者の確保の観点からも各地域の安定的な PC 工事量が必要です。

各地域の年度工事量の安定的・持続的な確保については、予算や事業の進捗状況などにより年度ごとに多少が出ることは理解しています。少し先には仕事があるという希望を得るためにも中長期の計画を示していただくことに意味があり、プロジェクトを創生していくことが重要と考えます。

インフラ維持管理の仕事も大変重要なのはもちろんですが、新設工事もやはり是非必要だと考えています。これまで培われた PC 技術を継承・発展させていくためにも、大自然のなかに人類の発展に寄与する構造物を創るというやりがいに魅力を感じ、この世界に入ってくれる担い手を確保するためにも、重要です。

PC 工事の発注量という観点でお話しさせていただきました。わが国において、PC に関する学問や技術が発展するためには、PC 構造が将来にわたって安定的・持続的に使われていくことが不可欠と考えます。PC 建協はこの素晴らしい技術の普及・発展のためにより一層努力していく所存です。関係各方面のご理解とご支援をお願いします。

* Hiroshi NISHIO : (一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 副会長
(株)安部日鋼工業 代表取締役 副社長